

平成二十六年一月投句

しゃがみこみ初夢を聞く介護士の

弾初の一人の広さ遮音室

春隣カタカナの名のしゃれた町

初恵比寿済ませしシェフの笑顔かな

つまみ上ぐ煮凝箸にくずれけり

正門へ廻り直して初詣

大銀杏冬木となりて境内に

冬の日の影の大きなかくれんぼ

はずされしマスクほのかに紅のあと

寒卯東京五輪を見るつもり

母編みしまフラーを巻き祈願せる

寒木瓜や昼の花街の路地ぬけて

双子かもしれぬ大ぶり寒卯

大木の洞に凍てゐる銀杏の実

初夢の語る筋なき紙芝居

嬰兒の泣き声囲む聖夜かな

嬰兒の手に力あり年新た

寒晴の本丸風の吹きさらし

勝利

光子

佳与子

真理子

節子

由紀子